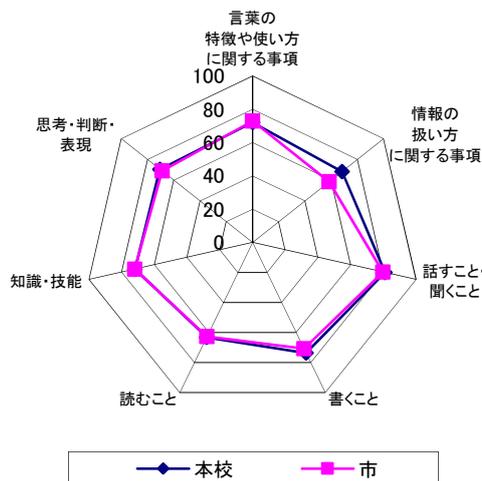


# 宇都宮市立清原南小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

## ★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	言葉の特徴や使い方に関する事項	72.1	73.0	75.5
	情報の扱い方に関する事項	68.4	58.5	59.0
	話すこと・聞くこと	81.0	79.8	75.9
	書くこと	73.6	70.7	71.7
	読むこと	63.3	62.8	62.5
観点別	知識・技能	71.9	72.0	74.4
	思考・判断・表現	70.5	69.0	68.5

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

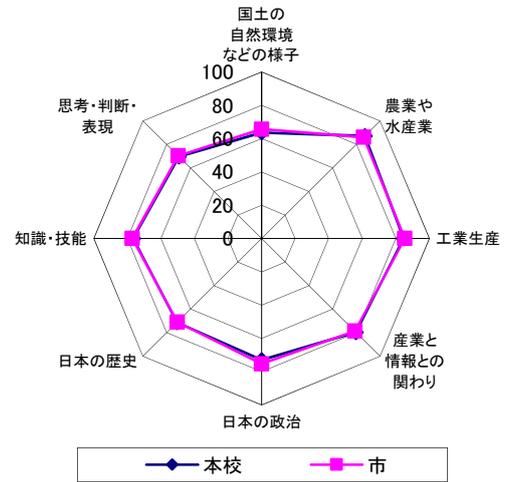
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	○漢字の読みは概ね定着している。漢字の書きは、市の平均に達している。 ●本校の平均正答率は72.1%と市の平均正答率(73.0%)より0.9ポイント低い。特に、言葉の学習で市の平均を7.7ポイント下回っており、尊敬語についての理解や同じ読みの漢字の使い分けが不十分で、文の中で正しく使うことに課題が見られた。	・漢字についてはさらに反復練習をし、漢字の意味を考えさせることで、同音異字語の定着を図っていく。 ・敬語に関する問題に取り組みせたり、普段の生活で敬語を使った話し方を取り入れたりして、時と場に応じた適切な言葉遣いを身に付けさせていく。
情報の扱い方に関する事項	○本校の平均正答率は68.4%と市の平均正答率(58.5%)より9.9ポイント高い。情報と情報との関係について理解し、目的に応じて、文章を簡単にまとめて書くことができた。また、自分の考えを明確に伝えるための工夫をして記述をするについても3.8ポイント高い。	・複数の資料を読み取り、自分の考察をする活動を、引き続き取り入れていく。 ・新聞の形にまとめたり、タブレットを使ってプレゼンテーションをしたりする活動を通して、考えをまとめ伝える力を高めていく。
話すこと・聞くこと	○本校の平均正答率は81.0%と市の平均正答率(79.8%)より1.2ポイント高い。 ●話し合いの中から聞き取った内容や共通点を整理してまとめることに課題が見られた。	・話し合いの要点を理解して聞けるようにするため、各教科や学級活動などで話し合いの場を意図的に設け、内容を整理する力を身に付けさせる。 ・話し方や聞き方のポイントを明確に示したスピーチ活動に取り組みさせる。
書くこと	○本校の平均正答率は73.6%と市の平均正答率(70.7%)より2.9ポイント高い。指定された長さの文章を書くことができた。 ●段落の役割について理解し、2段落構成で文章を書くことが市の平均より2.3ポイント低い。意見文に対しての賛成の意見や、反対の意見に対する反論文を書くことが市の平均より3.5ポイント低く、課題が見られた。	・構成メモをもとに、自分の考えを明確にした文章を書く機会を設けたり、根拠をもとに意見文を書く活動を充実させたりする。
読むこと	○本校の平均正答率は63.3%と市の平均正答率(62.8%)より0.5ポイント高い。物語の全体像を具体的に想像したり、登場人物の心情について描写をもとに捉えたりすることができた。また、表現の効果を適切に捉えることについては、市の平均よりも5.7ポイント高く、よくできていた。 ●物語文・説明文ともに、文章全体の構成を捉えることに課題が見られた。	・書き手の伝えようとしていることや根拠となる言葉をもとに、文章全体から、構成や状況を捉えて、正しく読み取ることを意識付けさせていく。 ・読書活動において様々な分野の本を読めるような機会を増やしていく。

# 宇都宮市立清原南小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

## ★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の自然環境などの様子	63.7	65.7	67.0
	農業や水産業	87.2	86.1	77.5
	工業生産	84.7	85.4	76.7
	産業と情報との関わり	79.6	78.6	69.6
	日本の政治	73.0	75.2	65.8
観点別	日本の歴史	71.2	71.1	69.1
	知識・技能	76.5	77.0	72.8
	思考・判断・表現	69.6	70.3	64.5

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

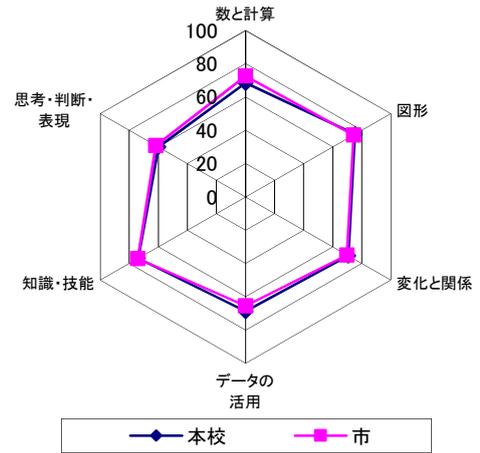
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の自然環境などの様子	○日本周辺の海洋名については理解している。 ●本校の平均正答率は63.7%と市の平均正答率65.7%より2ポイント低い。日本の周辺の国の位置や国旗、雨温図を通して日本の気候の様子を読み取ることの理解が不十分であった。	・地図帳を活用し、日本の周辺の国の位置や国旗に関心を高める。 ・知識をもとに資料を論理的に関連付けることで、資料を活用する力を高めていく。
農業や水産業	○本校の平均正答率は87.2%と市の平均正答率86.1%より1.1ポイント高い。米作りの作業や生産効率についてよく理解できている。また、食糧生産についての資料の読み取りについてもよくできている。 ●水産業の国内生産量と輸入量の変化についての資料の読み取りについては十分ではなかった。	・引き続き身近な地域への関心を高め、そこから日本の農業や水産業が抱える課題についての理解を深める。 ・教科書や資料集にある資料から、現状や問題点を読み取る学習を単元の中で積極的に取り入れていく。
工業生産	○工業の種類については十分理解している。 ●本校の平均正答率は84.7%と市の平均正答率85.4%より0.7ポイント低い。問題としては、電気自動車など環境に配慮して生産された自動車とガソリンカーを比較して考えた時のよさについての理解が不十分であった。	・これからの工業生産の課題と、持続可能な社会の実現を意識した授業を展開していく。 ・工業製品の学習や工場見学を通して、引き続き関心を高めていく。
産業と情報との関わり	○本校の平均正答率は79.6%と市の平均正答率78.6%より1ポイント高い。特にインターネットを活用する時の注意点については正答率は98%と非常に高い。 ●新聞やテレビなどメディアの情報について大切なことについての理解が不十分であった。	・引き続き、情報モラル教育を意識した指導を心掛け、インターネットを効果的に活用できる力を身に付けさせていきたい。 ・授業で映像によるニュースや新聞記事を扱い、正しい知識や判断力を養うとともに、情報を活用する学習を通して、多様化している情報化社会に対応できる力を身に着けられるようにしていく。
日本の政治	○日本国憲法の意義や裁判所のしくみについては正答率が約80%とよく理解している。 ●本校の平均正答率は73.0%と市の平均正答率75.2%より2.2ポイント低い。特に国会のはたらきについての理解が不十分であった。	・日本の政治のしくみや語句の意味について理解できるよう新聞やニュースを通して日本の政治の仕組みに目を向けられるよう工夫する。 ・引き続き日本国憲法や裁判所の仕組みについては教科書や映像資料をもとに理解できるようにする。
日本の歴史	○本校の平均正答率は71.2%と市の平均正答率71.1%より0.1ポイント高い。奈良時代から平安時代にかけて、特に藤原氏の政治については、89.8%と、よく理解できていた。 ●平安後期から鎌倉時代にかけては官職名や歴史的事象や語句についての理解が不十分であった。	・それぞれの時代で起きた出来事について整理し、知識の定着を図る。 ・官職名や歴史的事象が多くなってくることから、網羅的に知識を習得するのではなく、資料をもとに時代背景を読み取る力を伸ばしていく。

# 宇都宮市立清原南小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

## ★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	68.5	72.6	71.6
	図形	75.3	74.4	72.0
	変化と関係	70.6	69.8	62.6
	データの活用	68.7	65.5	59.1
観点別	知識・技能	73.9	74.1	68.9
	思考・判断・表現	60.1	61.6	63.7

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

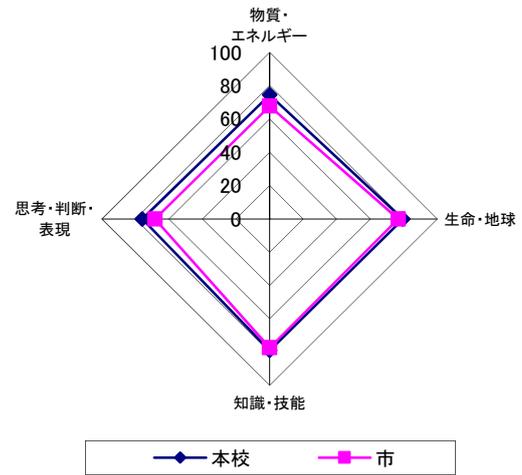
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<ul style="list-style-type: none"> <li>●本校の平均正答率は68.5%と市の平均正答率より4.1ポイント低い。</li> <li>○分数の計算については、市の平均正答率とほぼ同じであった。</li> <li>●小数の計算については、市の平均正答率より約9ポイント低い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○引き続き、反復練習を行うとともに、通分や約分などの基本的な事項の定着を図っていく。</li> <li>●計算の反復練習で計算力を高めるとともに、数直線を活用して、文章題にあった式を立てることができるように指導していく。</li> </ul>
図形	<ul style="list-style-type: none"> <li>○本校の平均正答率は75.3%と市の平均正答率より約1ポイント高い。</li> <li>○面積や角の大きさの問題は、市の平均正答率より上回っている。合同な図形の作図の問題は、100%の正答率であった。</li> <li>●立体の展開図や見取り図の読み取り、対称な図形については、市の平均正答率より低い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○引き続き面積や角の大きさについてのさらに知識が定着するよう課題の出し方やワークシートの使い方を工夫していきたい。</li> <li>●具体物を使うなど指導法を工夫し、立体についての理解を深めるようにしていく。また、立体を組み合わせた形の体積を求める問題では、反復練習をすることにより定着を図れるようにする。</li> </ul>
変化と関係	<ul style="list-style-type: none"> <li>○平均正答率は70.6%と市の平均正答率より約1ポイント高い。</li> <li>○平均を求める問題については、市の平均正答率を約7ポイント上回っており、混み具合に関する問題も市の平均正答率より上回っている。</li> <li>●速さの問題に関しては、市の平均正答率より低い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○平均の求め方や混み具合に関する知識を生活に生かせるよう、他教科や日常的な場面等で活用できるような機会を設けていく。</li> <li>●公式の理解を深めるとともに、単位量あたりの大きさの問題の反復練習を行う。また、考えたことを言葉で表し、説明する機会を増やすことで、問題に関する理解を深め、さらなる定着を図る。</li> </ul>
データの活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>○平均正答率は68.7%と市の平均正答率より3.2ポイント高い。</li> <li>○度数分布や最頻値、グラフの読み取り問題については、市の平均回答率より上回っている。</li> <li>●平均値を求める問題の平均正答率は、市の平均正答率より低い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○今後も他教科との横断的な指導により、さらに正確にグラフを読み取る力を養っていきたい。</li> <li>●いろいろなグラフを読み取る機会を意図的に設け、データの見方の学習内容についての理解を深めることで、平均値の求め方の定着を図るようにしていく。</li> </ul>

# 宇都宮市立清原南小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

## ★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	物質・エネルギー	74.5	67.8	64.1
	生命・地球	79.5	76.7	78.3
観点別	知識・技能	79.0	77.4	78.3
	思考・判断・表現	75.8	68.3	66.2

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	<p>○本校の平均正答率は74.5%と市の平均正答率より6.7ポイント高い。物のとけ方、ふりこのきまり、物の燃え方の正答率が高かった。</p> <p>●物が燃えることで、空気中の酸素の一部が使われることについての設問では、市の平均正答率よりも21.6ポイント低かった。</p>	<p>・予想、実験や観察、結果、考察の問題解決の過程に沿って学習を進めていくことで、児童の関心意欲を高めていきたい。</p> <p>・物が燃えた時の空気中の酸素について再実験を行い、燃焼の前後の酸素量を比較することで、理解の定着を図る。</p>
生命・地球	<p>○本校の平均正答率は79.5%と市の平均正答率より2.8ポイント高い。植物のつくりとはたらきや、生物とかんきょうに関する設問の正答率が高かった。</p> <p>●天気の変化では、天気図の読み取りや雲の動きについての理解が不十分であった。</p>	<p>・実験観察に時間を掛け、繰り返し指導を行ったことで、児童の意欲が高まり、正確な知識を身に付けることができた。今後も継続して指導していきたい。</p> <p>・天気の変化では、映像資料を活用したり、インターネットで調べ学習をしたりすることでさらに理解を深めていきたい。</p> <p>・日常生活と関連付けて天気の変化について、天気図や雲画像、アメダス等を使ってより深く理解させていきたい。</p>

## 宇都宮市立清原南小学校 学力向上に向けた学校全体での取組

### ★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
児童同士の協働的な学び合いの学習を通じた、思考力の向上	話し合いなどの学び合いの場において、課題を明確にして話し合いができるようにするとともに、自分の考えを整理したり、根拠を明確にしたりして意見の交換ができるよう学校全体として取り組んだ。	学び合いを意識して多くの活動を行った国語・理科では、領域別の正答率が市の平均を上回った。課題に対して児童同士で一緒に考え、学習を進めることで、意欲の高まりや知識の定着が図られた。
単元や児童の実態に合わせた少人数指導や習熟度別学習の充実。繰り返しの学習による内容の定着。	個に応じた対応と集団の特性を効果的に生かす学習形態を工夫し、計画的、継続的に指導にあたっている。教材を繰り返し活用することで、問題の解き方の定着を図っている。	全体的に市の平均と比べて顕著に正答率が低い項目はなく、学習形態の工夫や繰り返しの学習を行った結果、概ね基礎基本の定着が図られている。

### ★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

・全ての教科において、必然性のある考えの交流、学び合いの場の設定をすることで、より一層の学力向上を目指す。また、児童の考えを整理する板書の工夫や、児童の発言やつぶやきを的確に捉え、授業に生かしていく教師のコーディネートを意識した授業の展開を図っていく。

・家庭学習において、自ら計画を立てて取り組むことに課題が見られた。授業で習ったことの復習、問題の解き直し、次の学習内容の予習など、学年の発達段階に応じて、より確かな学力の定着に結びつく復習、予習の勧めや自主的な課題の見つけ方を示すなど、意識を高める工夫をする。